

# 社会も市場も「変革」のスピードを増しています。 それに対応する次の「芽」を育てています。

## 2008年は変革への警鐘が鳴った年

2008年は、ひと言でいえば「変革への警鐘」が鳴った年と捉えることができると思います。

2008年の4月から9月期には世界的な原材料の高騰が、そして10月から3月期にはリーマンショックを契機とする経済不況および急激な為替変動が起きました。しかしこの一年間の混乱だけに目を奪われていては、本質を見失う危険性があります。

例えば自動車業界にフォーカスしてみますと、今は先進国の販売は冷え込んでいますが、中国やブラジルなどの需要は依然増え続けており、このままでは世界的なガソリン需要も高まるでしょう。このため、石油原料は需要過多となり、価格高騰や在庫が逼迫する事態を引き起こすことにもなりかねません。

つまり持続可能な社会をつくっていくために、石油などにかわる代替資源への転換を進めていかなければいけないという、大きな流れは変わっていません。

2008年の混乱は、将来の危機に対し、よりスピードをあげて変革への準備をせよ、という警鐘と捉えることが適切だと思います。

## 変革期こそビジネスチャンス

当社は創業以来一貫して、テルペンなどの天然精油を原材料とし、化石燃料に代わる資源としてその応用技術を広げることで、提供する分野の可能性を広げてきました。

2008年は、自動車業界等で大規模な在庫調整を行ったために、そうした分野において当社も大きな影響を受けましたし、輸出関連の化学メーカーへの需要も冷え込みました。

しかし当社は「自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。」という基本理念の基に、活動の歩みをとめることはありません。一時的な混乱に迷うことなく、次の時代への準備を着々と進めています。

私たちの得意なテルペンは、環境に優しくリサイクルも容易で、未知の可能性が無限に広がっています。また環境や安全に対する社会的なコンセンサスの広がりも私たちにとっては追い風です。

変革期こそビジネスチャンスと捉え、「重点化」「グローバル化」「内部統制拡充」「環境・品質管理の徹底」という4項目を2009年の経営の重点方針としました。

## 新製品開発や成長市場の重点化

画期的な技術革新が訪れ、急激に社会に普及するということがよくあります。

例えば液晶時計が登場したときには、機械式時計の技術を全く持たないデジタル機器のメーカーが一躍シェアを確保しました。またレコードがCDに代わり、写真フィルムはあっという間にデジタルメディアに代わりました。変革の時には驚くような技術革新が起き、そこにビジネスチャンスが生まれるのです。



## 基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

今、自動車においてはハイブリッド車が好調ですが、やがて電気やガソリン代替燃料自動車の時代が来るでしょう。またエネルギー資源も太陽光発電やその他の自然エネルギーの実用化が進んでいます。

こうした革新的な変化が起こりそうな分野を予想し、それに備えて「芽(シーズ)」を用意しておくことが重要と考えています。

5年先10年先、あるいはもっと将来に大きな花を咲かせることができるよう、成長の期待できる市場や技術にフォーカスし、重点的に経営資源を投入できるよう準備しています。

## 新興国を中心にグローバル化

ここ数年の世界経済は、BRICsと呼ばれる新興国が中心となり牽引してきました。この半年間の混乱の中でも、こうした新興国の経済活動は依然活発で、こうした国々への輸出を得意とする企業もまた活性化しつつあります。

当社はすでに中国には進出していますが、かの国では汎用品や廉価品が横行する中で、当社の製品は高い評価を受けています。それはヤスハラケミカルのブランドが通用しているということで、コストに見合う高い品質が評価され信頼されているということです。

今後はそのほかの新興国に対しても、当社独自の販売を積極的に考えていくよう計画しています。また、世界を席卷するような次の基幹商品を生み出すメーカーへ、付加価値の高い製品を提供するというのも、もう一つのグローバル化と捉えています。

## 内部統制拡充でブランド力向上

私たちの提供する製品は、機能を特化させたものや、特殊用途に適した付加価値が高い製品が多くあります。そうした製品を国内や海外の市場に安定的に提供していくには、ヤスハラケミカルのブランド力を高めていくことが必要と考え、2009年より内部統制システムを強化しました。



管理部門、営業部門、生産部門が一体となり内部統制システムを構築し、信頼性の水準を高めるとともに、内部監査体制も拡充させチェック体制を強化しました。

こうした体制の拡充により、企業価値やブランド力を恒常的に高めていきたいと考えています。

## 環境・品質管理の徹底

2009年以降、社会の変化はさらにスピードを増していくと考えられます。こうした変化に対応するには、環境管理においても品質管理においても、これまで以上に厳しく取り組む必要があると考えます。各社員や各職場においては、これまでもさまざまな改善に取り組んできましたが、これからはさらにそのクオリティとスピードを高めなければいけません。それには社員一人ひとりが「改善」から「改革」へと、意識を高めることが大切です。こうした会社の考え方や姿勢を各社員・各職場に正しく伝え、全社が一丸となり取り組めるよう、経営企画室を設置しました。

100年に一度の経済危機は、変革への警鐘です。ヤスハラケミカルは、次に来る新しい時代に備え、社内体制を整えるとともに、新しい「芽」を次々に準備しています。そして時代の風の方向を正しく読み適切に舵をきることで、社会の発展に継続的に寄与していきたいと考えています。